



発行所
 財団法人 漁船海難遺児育英会
 東京都千代田区内神田
 2丁目2番1号
 鎌倉河岸ビル内
 電話 03(256)1981
 03(256)8394
 印刷 (株)連合印刷センター
 電話 03(582)8541

心のふれあいの場を

求めて

「育英会だより」誕生の想い出



育英会業務部長
 手島弘平

はじめに

本会の機関紙「育英会だより」は、本号で三〇号を重ねました。年四回の発行ですから、すでに八年目に入っております。この間に、貴重な原稿をお寄せくださった奨学生やお母さん方、また関係者の方々は全国に及んでおり、その数は大変な人数にのぼっております。本当に、有難うございました。

いま、創刊号からふり返ってみますと、当初はいかに模索の悩みが色濃くみられますが、号を重ねるにしたがい逐次その性格を形づくっている航跡がうかがえます。そして、まだ不十分とはいえ、皆さんと育英事業とを結びパイプの役割を持っているんだという誇りと、それにも増して、皆さんの力がここまで育ててきたのだという喜びにうたれます。しかし、タブロイド版二頁建を原則とする小さい紙面では、やはり限界も感じられるところですね。

三〇号を機会に、本紙おいたちの想い出を若干つづつてみました。

おいたちの想い出

「奨学生家庭へ、給与金を送るだけ

は社会に訴える力も強い。こうしてできたのが、本会の文集第一号「だっこしてもらいたかった」と題する五周年記念文集です。

この文集に寄せられた仲間たちの情熱は、たいへんなものでした。初体験のためまず心配な原稿が集まるだろうかという懸念は、全くの徒労に過ぎました。また、個々の作文技術も実に立派なもので、専門家にも高く評価される高い水準です。

この手づくりの文集は、社会の注目をあびたことはいまでもありません。同時に、もっと大きな収穫は、この文集がその後の育英事業に、どれだけ自信を与えてくれたかわかりません。その自信が、この「育英会だより」の発行につながっているのです。

「同じ立場の海難遺児の人たちのお話を聞いたら、ポツカリあいた穴がふさがるかもしれない。そしてまた、新しい希望も湧くことを期待している。」これは、第二号に投稿してくれた神奈川県の一遺児の本紙への期待でした。

また、第六号に見られる栃木県の一母の言葉に代表される「生きなければならぬのだ」という簡単な言葉の蔭に、幾多の切なさ、苦しさがあふれました。

この手づくりの文集は、社会の注目をあびたことはいまでもありません。同時に、もっと大きな収穫は、この文集がその後の育英事業に、どれだけ自信を与えてくれたかわかりません。その自信が、この「育英会だより」の発行につながっているのです。

お父さんを思って



大分県姫島中学校
 二年 鹿野幸美

私のお父さんが死んだのは、私が小学校二年生で、妹が五歳、弟が二歳の時でした。お父さんの死はあまりにも突然でした。私が小さかったころのことなので、お父さんのことはあまり記憶にはありません。お父さんのことをあまり覚えてないということほど悲しく寂しいことはありません。私がお父さんとくらしたのには、たったの七年間でした。強く覚えていることといえば、お父さんの死んだ日ぐらいではないかと思えます。お父さんが死んだとわかって、お父さんの遺体を見ると、私は小さかったけど、大きな悲しみにおそわれて、涙がとめようもないくらい流れ出てきました。とても、お父さんの死が、しんじられませんでした。私は、お母さんの悲しむ姿を見ると、死んだお父さんに、「どうして死んでしまったの。」といたくなくなるくらいでした。

お父さんの死で私達一家の生活は、ずいぶん変わりました。お母さんは、お父さんがいればはなれてすむ苦労もたくさんしてきました。勤めをはじめた時は、お父さんが亡くなった悲しみと、勤めになれないとで、とてもつらそうでした。私はそんなお母さんを見て、とてもかわいそうだと思いました。今では勤めにもなれて、お母さんもずいぶん強くなったと思います。

今でも、お父さんの話をしていると、ああ、お父さんが生きていてくれたらなあと思ったり、お父さんがほしいなあと思ったりすることがあります。でもそのたびに、私にはお母さんがいるじゃないか、と何度も思ったことがあります。

私がお父さんのことで悲しくなるたびに、ああこれ以上、海難事故でお父さんを亡くす人がふえなければいいのにと、思いました。

「同じ立場の海難遺児の人たちのお話を聞いたら、ポツカリあいた穴がふさがるかもしれない。そしてまた、新しい希望も湧くことを期待している。」これは、第二号に投稿してくれた神奈川県の一遺児の本紙への期待でした。

また、第六号に見られる栃木県の一母の言葉に代表される「生きなければならぬのだ」という簡単な言葉の蔭に、幾多の切なさ、苦しさがあふれました。

この手づくりの文集は、社会の注目をあびたことはいまでもありません。同時に、もっと大きな収穫は、この文集がその後の育英事業に、どれだけ自信を与えてくれたかわかりません。その自信が、この「育英会だより」の発行につながっているのです。

私がお父さんのことで悲しくなるたびに、ああこれ以上、海難事故でお父さんを亡くす人がふえなければいいのにと、思いました。

生きがい雑誌

「出会い」 廃刊のお知らせ

昭和五十八年八月から二年間にわたって、奨学生皆さんの家庭に毎月一冊ずつ寄贈されてきました「出会い」が、今年十月号をもって

て廃刊されることになりましたのでお知らせいたします。「出会い」につきましては、多くの方々から「手元に届くのが楽しみです。」「家族全員で読んでいます。」との声が寄せられ、大変な反響がありました。ここに「出会い」を寄贈していただきました三國工業株式会社並びにミサワホーム株式会社、株式会社社経界に対して厚くお礼申し上げます。また、二年間にわたり「出会い」の配布に御協力いただいた漁協の皆さんにも併せてお礼申し上げます。

よりよい機関紙に

「第一号から大事に保存しております。」「だよりがくるのを待っております。」等々の声を聞くたびに、事務局はどれだけ励まされたことでしょうか。三〇号八年間を通じてみまると、時には原稿も少なく、不本意なまま発行した号もありました。今後は、こういうことのないよう、よりよく実り多い機関紙に皆さんの力を一層結集しましょう。そして慾を言えば紙面も拡大したいし、もっと皆さんの声を積極的に取材する等、ふれあいの場を広めたいと思えます。それには色々の工夫が待たれます。どうぞ、皆さんの御意見・御希望をお寄せください。第三十一号からの新味などよりの発刊を祈念し、事務局も努力します。

〒872-15 大分県東国東郡 姫島村一五六七の六

父母に学ぶ



長崎県伊王島中学校

三年 平戸ルミ

「おかえり。もう夕食すんだよ。お母さんも食べれば」と言っ...

「おかしら、おやすみ」と言っ...

「友だちはできるかな」と考...

「友だちはできるかな」と考...

私は今、伊王島という小さい島に住んでます。とても幸せです。友達もたくさんいますし、毎日健康に学校へ通うこともできます。こんな私なのに、今一つだけ、自分が嫌いでどうにもならないことがあります。

私が小学校三年生のとき、父を亡くしてからというものの女手一つで育ててくれている母に、何か不思議に、今、反抗する心がわいてくるのです。

私の父は、昭和五十二年八月二十三日、海の事故で亡くなりました。父は、東シナ海で遺体で見えましたが、いっしょに行った父の兄弟は、今だに「ただいま。」

就職する皆さん がんばって!

＝先輩からのアドバイス＝

里館美輪子

母は、私たちのために働くようになり、妹と二人でささやかな夕食をすませるようになりました。お風呂もすませ、そろそろ勉強を始めようとするとき、母は帰ってきます。

「もう、あっちいってよ。」こんな言葉しか出てこないのです。母は、決して「おかしら、おやすみ」と言っ...

「おかしら、おやすみ」と言っ...

「友だちはできるかな」と考...

「友だちはできるかな」と考...

私の場合、最初の希望は、進学・就職でしたので悩みました。けれど、少なくとも二年間は、学業と仕事を両立させなくてはならないので考えた末、両立させていくだけの自信がなかったで、やめたのですが、もう少し自信があつたならば、やっていたかもしれませぬ。

就職してからは毎日が勉強の連続です。仕事のこと、人との付き合い方などです。仕事の中で大切なものの一つに、電話の応対があります。電話の応対の仕方によってその会社の印象が違ってくるのです。電話の応対の時は、相手が見えないので、言葉の言い方や使いが大切になってくるのです。私は入社したころ電話が恐くて電話をとることができませんでした。それは、電話の内容が理解できなかったり、普段使っている言葉が出てしまひ、先輩に注意されたり、失敗ばかりやっていたからです。現在は、いくらか慣れて電話に出られるようになりました。

あと、目上の人や同僚の人達との付き合い方も難しいです。今まで違う環境で暮してきた人達と一緒に仕事をし...

「おかしら、おやすみ」と言っ...

「友だちはできるかな」と考...

「おかしら、おやすみ」と言っ...

「友だちはできるかな」と考...

昭和五十七年度卒業生の進路状況について

育英会では、育英事業の基礎資料とするため、毎年、中・高等学校卒業生に対して進路報告を提出してもらっています。

この度、昭和五十七年度卒業生の進路状況をまとめましたので、その概要を報告します。

(一) 中学校卒業生の進路状況
昭和五十七年度の中学校卒業生は、三百七名でした。うち進路報告を提出した者は二百二十四名、七十三%です。この報告率は、高いと言えませぬ。育英事業にとり大切な資料ですから、今後は必ず提出してください。

まず、進学率をみますと、高等学校進学率は八十七%であり、専門学校及び各種学校進学率が五%です。就職率は八%でした。

この状況を、文部省の全国進学率調査(昭和五十七年度末現在)と比較してみると、全国では九十四%であり、本会奨学生の進学率は全国平均よりも七%下回っていることがわかります。これは、授業料など経済的負担等が大きな理由になっていると推察されます。このため、今後、育英会ではこれらの資料をもとに、もっと進学の援助ができれば、もっと奨学金貸与事業の改善充実を図ることとしております。

就職については、建設業、製造業、建設業、製造業、サービス業等が大部分で、漁業就業者はわずか三%と、前年度の五%をさらに下回る低い就業状況でした。(事務局・三浦)

建設業、製造業、サービス業等が大部分で、漁業就業者はわずか三%と、前年度の五%をさらに下回る低い就業状況でした。(事務局・三浦)

建設業、製造業、サービス業等が大部分で、漁業就業者はわずか三%と、前年度の五%をさらに下回る低い就業状況でした。(事務局・三浦)

〒351 埼玉県和光市下新倉一五七 七 福神(株) 和光寮内

都道府県別奨学生数

(昭和58年9月末現在)

名	学資給与奨学生				奨学金給与奨学生	合計	58年度第2回新規採用者				
	幼	見	小学生	中学生			小計	幼	見	小学生	中学生
道	8	104	115(4)	227(4)	29	256(4)	1	1	1	1	4
森	6	43	52(3)	101(3)	36	137(3)	1	3	2	—	6
手	5	56	48	109	35	144	1	1	1	—	3
城	6	73	52(2)	131(2)	13	144(2)	—	—	—	—	—
田	2	15	6	23	2	25	—	—	—	—	—
形	1	15	11(1)	27(1)	7	34(1)	—	—	—	—	—
島	2	20	31	53	12	65	—	—	—	—	—
城	1	7	5	13	4	17	—	2	1	—	3
木	—	2	—	2	—	2	—	—	—	—	—
葉	1	11	25	37	2	39	—	—	—	—	—
京	—	2	3	5	2	7	—	—	—	—	—
川	—	1	6	7	2	9	—	—	—	—	—
湖	2	8	11	21	2	23	—	—	—	—	—
山	1	5	10	16	3	19	—	—	—	—	—
川	2	27	20	49	12	61	—	—	—	—	—
井	—	3	5	8	4	12	—	—	—	—	—
岡	3	6	10	19	8	27	—	—	—	—	—
知	1	9	5(1)	15(1)	8	23(1)	—	—	—	—	—
重	1	12	12	25	6	31	—	—	—	—	—
都	—	5	2	7	1	8	—	—	—	—	—
阪	—	3	1	4	3	7	—	—	—	—	—
庫	2	14	15	31	3	34	—	—	—	—	—
山	—	3	15	18	5	23	—	—	—	—	—
取	3	12	19	34	6	40	—	—	—	—	—
根	2	14	11	27	4	31	—	—	—	—	—
山	1	5	7	13	4	17	—	—	—	—	—
島	1	3	1	5	1	6	—	—	—	—	—
口	1	31	39	71	26	97	—	—	—	—	—
川	—	9	5	14	8	22	—	—	—	—	—
島	1	6	3	10	6	16	—	—	—	—	—
媛	—	11	8	19	6	25	—	—	—	—	—
知	—	10	13(1)	23(1)	9	32(1)	—	1	1	—	2
岡	3	21	9	33	8	41	—	—	—	—	—
有明海	—	4	—	4	—	4	—	—	—	—	—
東玄海	—	7	11	18	1	19	—	—	—	—	—
有明海	—	2	1	3	—	3	—	—	—	—	—
崎	3	43	60(1)	106(1)	23	129(1)	—	1	—	—	1
分	1	13	12	26	3	29	—	—	—	—	—
本	—	6	4(1)	10(1)	2	12(1)	—	—	—	—	—
崎	1	9	11	21	7	28	—	—	—	—	—
島	3	14	14	31	11	42	—	2	—	—	2
縄	1	6	12	19	4	23	—	2	1	—	3
計	65	670	700(4)	1,435(4)	328	1,763(4)	3	13	7	1	24

() 学資給与奨学生の () 内は特殊児と外数である。

絵画募集のお知らせ



トリノでの展示風景

第二十九号で紹介した絵画は、今、赤平さんの喫茶店「トリノ」で写真のように展示され、多くの方々に見ていただいております。また、記念品を受け取られた家族の方からの、感謝の手紙も届きました。赤平さんからも「さ

らに募集を続け、二十点以上集まった色々な方面に大きく公表して、遺児達の絵画を通じ、多くの人々に海難事故の悲惨さを知って貰い、理解していただき、海難遺児を励ます運動の協力を、より大きなものにしてゆきたい。」とお便りがありました。

育英会も、奨学生の絵画を一人でも多くのの人々に見て貰いたいと思っておりますので、皆さん、夏休みなどに書いた絵画を送って下さい。

送られた方には、赤平さんより画材や絵ハガキ等の記念品が送られます。皆さんの力作、傑作をお待ちしております。

募集内容

- ※ クレヨン画、水彩画、油絵、版画
- ※ はり絵、その他
- ※ 絵の大きさは自由(学校で書いている大きさを参考にしてください)
- ※ 送り先

〒101 東京都千代田区内神田二丁目二一 鎌倉河岸ビル内

(財) 漁船海難遺児育英会



漁船海難遺児を励ます和歌山県地方協議会

第三回豊かな海づくり大会での募金活動

黒潮よせる本州最南端の町、串本町の串本漁協荷捌所において第三回目の全国豊かな海づくり大会が、七月十七日皇太子殿下、同妃殿下のご臨席のもと全国各地から漁業関係者約四千人が

担します。なお、応募作品は、返却されません。

※ 応募者には、記念品(画材等)が贈られ、作品の送料は主催者が負担します。

集い盛大に開催されました。

当日は薄雲りながら時折真夏日のさす、まずまずの天候で、会場メイン通りに設置された水産展示コーナーの一角に本部を設け、水色の羽根募金活動を行いました。

活動メンバーは本県漁協連役員九名、育英会、全漁連から三名、それに信漁連職員十一名の二十三名が、六つの募金箱を中心に一組三、四名のグループとなり会場のすみずみまで、メガホンを持って協力を呼びかけました。

特に育英会にお願いして水色の羽根募金用ののぼりをつくってもらい、のぼりを持つ者、募金箱を首から吊りさげた者、たすきをかけて羽根を持つ者、又募金者の胸に羽根をつける者が一丸となって歩く姿は、「まるで桃太郎の一行のよう」と参加者から冗談がとぶほど目立ちました。

汗をふきふき声をはりあげ、顔見知りをつみつけては走り寄っての大奮闘を式典開会までの三時間実施しました。

予想外の募金額が寄せられたことに私たちは大満足をし、意義深い活動に参加出来た喜びと、ご協力下さいました皆様方の暖かいお心に感謝申し上げます。(和歌山県信漁連推進課)

『募金・寄付金』お礼

昭和五十八年七月から九月までの間に、御協力いただきました募金・寄付金の御芳名を掲げ、厚くお礼申し上げます。なお、敬称及び漁連名は略させていただきます。

一、漁協系統募金(系統扱い一般寄付金を含む)

- 〔七月〕▽千葉県(植木泰滋)▽長崎県(植木泰滋)▽和歌山県(第三回豊かな海づくり大会募金)
- ▽鳥取県(谷田毅・香典返し)▽鳥根県(瓦田キヨ子)▽熊本県
- 〔八月〕▽香川県(東讃漁協青年部ほか一件)▽千葉県(香川県内海町漁協理事児玉益一・香典返し)▽山口県(中野郁史・三好秀人)▽石川県(丸文商店)▽富山県(岩瀬漁協婦人部)
- ▽山口県(八木園子・香典返し)
- 〔九月〕▽京都府▽大分県(ダイヤモンドフェリーさつき会)▽岡山県(南条綾子・下津井漁協組合長故南条岩松氏香典返し)▽三重県(三重県の間屋協同組合ほか十二件)▽岡山県(乙島漁協婦人部)▽全国漁業協同組合連合会漁政課長屋信博)▽第二十回全国婦人水産業従事者グループ研修会募金
- 一、一般寄付
- 〔七月〕▽鈴木二郎(神奈川県横浜)▽日比勝行(島根県浜田市)▽深海漁場開発(創立十周年記念)▽第三十回全国水産物商業協同組合連合会
- ▽京都大会募金▽矢部晴夫(埼玉県川越市)▽匿名▽石橋美美(全日海経由)
- ▽全日本労働総同盟東青地区同盟・全国海友婦人会青森支部・船員親睦団体青森鳴友会・全日本海員組合青森分室(全日海経由)▽下田海友婦人会(全日海経由)▽全日本海員組合函館支部
- ▽東讃漁業(海洋生物環境研究所鈴木久三郎)▽島田稔・亀山浩嗣(漁船海難遺児育英会資金チャリティー海洋画展売上金)▽高山隆三(東京都杉並区)
- ▽鈴木二郎(神奈川県横浜市)▽匿名
- 〔八月〕▽山梨県水産物商業協同組合▽井上幾(東京都新宿区)▽広島県魚類商業協同組合▽芳賀公設地方卸売市場買受人組合▽全国海友婦人会千葉支部▽水産庁漁政部企画課募金箱▽水産庁長官室募金箱▽名古屋水産物商業協同組合▽岩国水産物仲買人協同組合▽関西汽船海上従業員一同(全日海経由)▽ジョイ企画・北見恭子漁船海難遺児チャリティーコンサート売上金(米沢ロータリークラブ・北上・北洋漁業長会)▽千野輝雄(千葉県松戸市)

＊編集後記＊

いよいよ秋本番。二学期は、運動会や遠足あるいは修学旅行と、楽しい行事がいっぱいですね。どうか元気で楽しい思い出をつくってください。それを作文や絵にしてください。送ってください。投稿者には記念品を贈ります。

育英会だよりも、本号で三〇号になりました。一〇号の時も、二〇号の時も、なにか特集をやりたいと思いつきながら、つい実現しませんでした。今回も、準備不足で心残りです。

しかし、今回は鹿野幸美さん、谷幸伸君、平戸ルミさん、それに卒業生の里館美輪子さんのお蔭で、四頁建でお送りできました。有難うございました。なお、平戸さんの原稿は、本年七月二十八日に開かれた「社会を明るくする運動」、長崎地区弁論大会で第一位になられたものです。心からお祝い申し上げます。

私ごとで恐縮ですが、昨年の十月から長い間入院生活をしておりまして、本年九月一日から職場復帰しております。この間温かい励ましを